

## 63. つなぐ「かべ」

### - 幼老施設による呉商店街の再編 -

1110920056 赤松絵里  
指導教員 市川尚紀 准教授

商店街 集合住宅 幼老複合施設 かべ

#### 1. 設計主旨

現在、最も身近な社会問題として高齢化社会、人口減少、環境問題などがある。そのような問題を身近に感じられるのが商店街である。昔は栄えていた商店街も時代の移り変わりと共にシャッター街となり、深刻な問題となっている。また、間近に迫る超高齢化社会に向けて、高齢者が豊かな高齢期を過ごすための社会環境の整備が急がれている。その対策案として、保育園と老人ホームの併設すなわち幼老施設は増加傾向にあるが、土地や既存施設の有効活用といった財政的な事情がある。さらに、集合住宅では若者単身者や高齢者のひとり暮らしに便利な立地は高額で住みにくく、近所付き合いなどのコミュニケーションも不足している。

これらの問題点を商店街のリノベーションに結びつけ、経済的効果とともに異世代交流を図り、商店街の活性化を目指す。

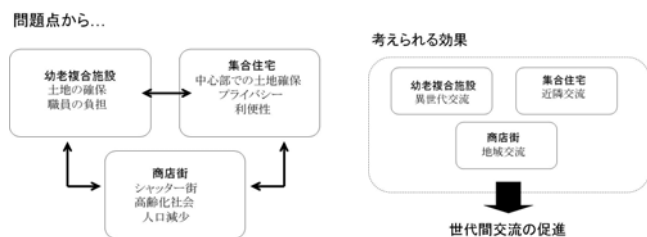


図1 コンセプトダイアグラム

#### 2. 計画地概要

計画地は広島県呉市中心部のれんが通り、花見通り、パルス通り、市役所通りの5商店街とする。呉駅から商店街まで徒歩10分となっている。また、近くには国道185号線が通り、川も流れている。

呉市は南側に海、北側は山と自然に囲まれている。また、古くから旧海軍や海上自衛隊のまちとして発展し、歴史ある建造物や造船文化が盛んである。人口は年々減少しており、高齢世帯割合が高い。

駅近くや郊外の大型ショッピングモールの進出により、シャッター街が増えているが、イベントなどで人を呼び込んでいる。平日は人が少なく、高齢者の利用が高い。休日は幅広い世代が買い物に来ているが、世代ごとに行きたい店は分かれ、賑わっている店と賑わいに欠ける店の差が激しい。また現在、空き地のほとんどが駐車場になっている。



図2 計画地周辺図

#### 3. 計画内容

##### 3.1 商店街の事例分析

全国各地の商店街107事例を収集整理し、それらの特徴や取り組みなどを分析した。一番多い取り組み内容は、イベントで盛り上げる方法である。また、観光地型商店街や駅と駅の間にある商店街、福祉医療系複合施設、集合住宅と一体化となった商店街がある。

##### 3.2 幼老施設、集合住宅の問題点

幼老複合施設とは、子供用の施設と高齢者用の施設の合築・併設されたものである。経済効果とともに、ノーマライゼーションの理念に基づく異世代交流が期待されている。しかし、幼老複合施設などといった複合施設を都心部に取り入れることは、財政的な問題や職員の負担が大きいのなどの問題がある。

集合住宅には様々な世帯や幅広い世代が暮らす。現在の問題点として、採光・通風問題、コミュニケーション不足、通勤通学の利便性、都心部での土地の確保が難しい状態である。このような問題を解決するためには、立地条件とコミュニケーションがとれる場の提供であると考える。

##### 3.3 幼老施設の分散配置

商店と集合住宅は既存の建物を利用し、大型店舗や空き地、今までの商店街の“通り”は取り除き、新たに空いた土地を利用し、通りや小道をつくり変えた。空いた空間に幼老複合施設や共有空間(憩いの場)を挿入する。既存の建物を利用することで、コスト削減ができる。また、幼老複合施設は集中させず分散配置することでまちと一体化させる。また、人の目に触れる場に配置することで、職員の負担を減らしたり、地域交流が広がる。所々にある空き地を誰でも使える交流の場にするすることで、近所や地域のコミュニケーション能力を高めることができる。

